

その

1

魚は水の生き物です。

なにが20秒?!

魚は水中でしか呼吸できません!空気中で20秒以上たつと生存率に支障が出るという科学的重要なレポートがあります。ですから釣り上げたら20秒以内でリリースを…それ以上時間がかかるときは魚を窒息させないためにいったん水中に戻し呼吸させます。

フックはバーブレスを使おう!

素早くフックをはずせるようにフックはバーブレスを使ってみてください。魚へのダメージを少なくできます。(フックにカエシの付いている場合は、ラジオベンチなどで返しをつぶすようにしてお使い下さい。バーブレスフックと同様の効果が期待できます。)

写真は素早く!

魚を写真に撮るときも20秒ルールを!!時間がかかるばかなるほど魚の生存率は下がります。もし時間がかかる場合は魚をいったん水中に戻し、呼吸を十分とのえてからにします。

計測するのも素早く!

魚のサイズを測るにも素早く!20秒ルールを!!長さ、重さを測る場合には、前もってメジャーや、ハカリを用意しておいてください。「ボートのイケス」や「潮だまり」「バックン=大型バケツ」「ストリンガー」などで魚の呼吸を妨げない用意は最良の方法です。

フック・オフ・ツール(ハリハズシ)を用意!

魚のダメージを最小限に抑えるためにフック・オフ・ツールを!(ハリハズシ、フォーセップス、プライヤー等)これらを使い分ければ素早くハリをはずせます。釣行の際にぜひ持つていかれるこことを強くお勧めします。

20秒ルール

その

2

魚はヌメリが命です。

ノン・ドライってなんなの?!

魚の体表面は『ヌメリ(粘液)』で覆われています。キズ、カビ、細菌などから体を守るためにとても重要です。「乾燥=ドライ」すると、乾燥したのに触ることはヌメリの破損につながる最大の原因です。その結果、組織が傷つきリリースした後の生存率が低下することになります。ですから「ノン・ドライ」なのです!

ランディング・ツールを使おう!

魚をキャッチするには「濡らしたランディングネット」「マウスグリップ」などを使いましょう。特に、ラバー(ゴム)製のランディングネットあるいはリリースネットは濡らして使用すれば魚の表面が傷つきにくく、リリースする際には最適なツール(道具)の一つです。

乾いたところに置かない!

これも「ノン・ドライ」です!…コンクリート、砂地、岩、土など乾いた地面に直接に魚を置くとヌメリが取れ、組織が傷つきリリースした後の生存率が低下することになります。このような場所に魚を置かないように十分気を

その

2

つけることです。(どうしてもときは「十分に水を撒いて乾燥を阻止」…ですね。)

つかむなら手をぬらそう!

これも「ノン・ドライ」です!…直接つかまないのが理想的ですが、やむをえずつかむ場合は『必ず手をぬらして』からにします。ぎゅっと握らず、やさしく持つことを心がけ、しかも、ヌメリをできる限り取らないようにすることです。

水入れがあるとグッド!

これも「ノン・ドライ」です!…魚を一時、入れておく『水入れ』(「ボートのイケス」「潮だまり」「バックン=大型バケツ」等)に新鮮な水が十分にいれてあれば、魚をいためず、窒息も防げます。その後の生存率もぐっとアップします。(注意点としては新鮮な水であることが重要です。)ヌメリの破損を防ぎ魚の呼吸を妨げない用意はリリースでの最良の方法です。

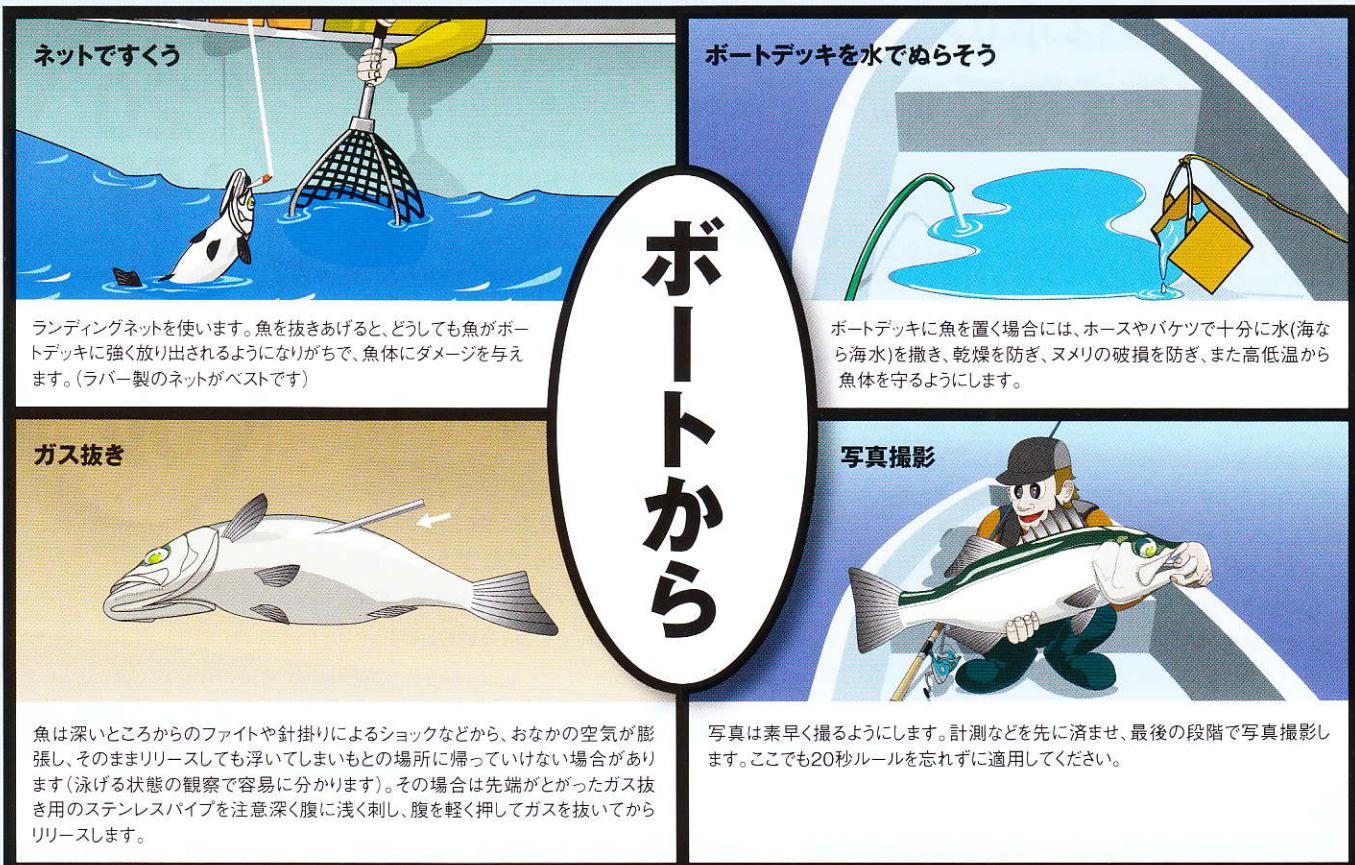
ノン・ドライルール



JGFAタグ＆リリース魚類保全委員会

入会・
お問合せ

NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会 (JGFA)
Eメール japan@jgfa.or.jp ホームページ <http://www.jgfa.or.jp/>



正しいキャッチ＆リリースのキーポイント



入会・
お問合せ

NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会 (JGFA)
Eメール japan@jgfa.or.jp ホームページ <http://www.jgfa.or.jp/>